

会議の名称	加東市生活支援体制整備推進協議会
開催日時	令和4年11月11日（金） 午後1時30分から3時35分まで
開催場所	加東市役所3階 301・302会議室
会長の氏名（藤原 慶二） 出席委員の氏名 藤原慶二 西山三希夫 沼田理 北山道徳 田中和美 藤井貴久代 河崎俊文 橋本雅樹 宮本忠臣 山口雅隆 岩崎吉泰 山田かほり 岡田彩葉 森田真加 岡田知佳 欠席委員の氏名 高内義弘 大塩猛 山本恵子 重本容延 大門はる代	
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 健康福祉部長 大西祥隆 高齢介護課長 平野好美 副課長 高濱さおり 主査 青野真理子	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 開 会 2 会長あいさつ 3 委員紹介 4 議事 議事録署名人に、藤井貴久代委員及び岩崎吉泰委員を選任 1) 報告事項 (1) 加東市生活支援体制整備事業の実施状況について【資料3】 第1層及び第2層生活支援コーディネーターから資料3に基づき加東市生活支援体制整備事業の実施状況について説明 会長：ありがとうございます。事業実施状況の説明が終わりましたが、何かご意見やご質問等あればお伺いしたいと思います。 委員：どんな方が住んでいるのか、もしそこで何か火事とかがあったときのために、昨年、住民台帳ということで、皆さんに配布して、今家におられる方を書いてもらいました。 会長：それは区長だけが見れる情報になっているのですか。 委員：一応そうです。	

会長：公開するに当たっては、その人の承諾がいる。どこまで公開してもよろしいですかと。個人情報ですからね。

委員：そうですね。それで、承諾を得て、隣保長には一応公開はしています。

会長：今、個人情報を公開してくださいという話ではなくて、たぶんそういう情報を、区長が知っているということをコーディネーターが知っているということが重要になってくると思います。結局、区長も誰も知らない中で関わりがないということと、区長が知ってくれていて関わりがないということでは、ちょっとアプローチの仕方が変わってくると思うので、今のは良い情報ではないかと思います。

他、いかがでしょうか。

委員：東条地域のLINE@のつながりのことでお伺いしたいのですが、やっぱりいろいろつながりは大事だと思います。このLINE@の登録数が、この1年間で倍以上に広がったのは、口コミで広がっていったのですか。あと、この登録された方は、こういう資源を活用されるご本人さんが、もともとLINEとかを使っていた方が自然的に入られたのか、知らない方にLINEやタブレットの使い方も併せて広げていったのか、お伺いできればと思います。

委員：44名から114名に増えたというのは、1年ではなく、2、3年かけて本当に口コミで広がっています。実は一度30人ぐらい集めてLINE@をやっているのを登録してくださいということをしてしましたが、実際蓋をあければ、登録して下さったのは1人でした。やっぱり口コミのほうが、効果的です。例えば、グランドゴルフ行きました、みんなで交流しました、この記事あげさせてください、今からアップするのでと言ったら、結構年配の方もLINEをやっておられて、そういうほうがすごい広がっていったかなということ。LINE@に登録してくださいとか実際いろんなところでチラシを置かせてもらって紹介させてもらったのですが、広がる感覚としては口コミが一番広がるかなということ。LINEやタブレットの使い方を説明するのではなく、ちょっとつながりを意識して、ご本人さんや周りにお勧めしているという形です。

会長：ありがとうございます。これ114名が全員東条地域の方というわけではないですね、LINE@は誰でも登録できますよね。

委員：そうですね、ただほとんどが東条地域の方です。あと少しは関係者の方もいらっしゃると思います。最初の立ち上げの頃は、関係者も、東条地域でなくても登録していただいているのですが、どちらかという東条地域の方が多いです。

会長：わかりました。他はどうでしょうか。私から1点、東条地域の伽の里さんの送迎車の空き時間を使って試行的にスタートした移動支援というのは、結構先駆的で良い事例だと思っていて、これを、いろんな事業所ができるようになってくるといいんですけど、全然スタートしてないところが多くて、なぜこれがスタートできるように

なったのかというところを教えてくださいのだけれども。

委員：今、デイサービスの送迎の運転手として地域の方が来ておられまして、朝と夕方2回に分けて出勤してくれて、送迎のお手伝いをしてくれています。その中で、地域の移動支援のところが困るということで、そこを困っているのなら何名かに残ってお手伝いしてもらったらどうかというところから発信していったというのが流れです。ただあまり増えると、ちょっと正直困るところがあるのでどこまでできるかというところはあるのですが、できるだけ地域のためにもと思い、やり始めてるというのが始まりです。

会長：ちなみに移動支援の範囲はどうなんですか。加東市内は行けるとかですか。

委員：いや、東条地域ぐらいですね。

会長：そうですね、空き時間ですからね。ちょっと明石まで行ってほしいみたいな話にはならないですね。

委員：移動支援としてとうじょう夢倶楽部さんの集まるときにお手伝いしてるという感じですか。だから、どっかあそこに行きたいからという移動、そういうタクシー的な感じではないです。

会長：でもたぶんすごく大切に、地域の集まりをつくるのはいいのですが、住民の方はそこへ行く術がなくて引きこもり傾向になっていくので、そこを社会福祉法人とかが担うというのは、おそらく地域貢献の一環として成立するものだと思うので、そこをうまくコーディネートしていただいて、しかも実践までいっているというのはなかなかレアなケースではないのかなと思います。結局デイサービスが使いやすいのは、デイサービスまでの送迎があるから使いやすいのであって、その代わりにその地域の居場所にどんどん行ってくださいと言っても、結局、居場所まで行く術がないから行けないという話なので、本当に自立を考えていこうと思うと、やはり移動手段の確保は結構重要な課題かなというところですよ。

他、いかがでしょうか。ないようなので次へ進めます。

続きまして、2) 協議事項(1) 加東市全域における生活課題の対策と今後の取組について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

2) 協議事項

(1) 加東市全域における生活課題の対策と今後の取組について【資料4】

事務局から(1) 報告事項の内容と資料4を踏まえて今後の取組について説明

(2) 意見交換

会長：これからは忌憚のない意見交換ということですので、発言をしていただければと思います。

委員：先ほど伽の里さんや会長が言われたように、やはりそこに行くという交通手段がないんですよね。個人的なことなのですが、私の家族が、70歳台で、大阪でずっ

と医療関係の仕事をしておりまして、そこからこちらの地区に引っ越してきました。何が困るかというのはやはり歳がいったときに分かるということ、何かというとやはり交通手段ですね。私の家族は、免許は持っているのですが、大阪で車に乗るのはすごく怖いので、車を持たなかったのです。こちらへ帰って来ても車を持たずに今バイクであちこち行っているのですが、歳とともにやはり病気がひどいので、明石へは電車で行けるのですが、加東市民病院ではちょっと診れないということで、今、北播磨総合医療センターに通わないといけないのですが、そこへ行くバスがないのです。今、イオン社店の南側に新しいバスターミナルが出来ているのですが、そこから北播磨総合医療センターへ行くバスというのは、直接あるのですか。ないですね。加東市内だけとか、小野市まで交通手段があればすごく助かるのですが。今どうやって行っているかというと、バスで小野のイオンまで行って、そこでらんらんバスに乗っています。らんらんバスは素晴らしいバスで、らんらんバスの停留所の小野のイオンの傍に、エクラとか、市役所、警察、宿泊施設とかが全部そろってますよね。エクラに行くと、いろんなことをやられているということで、先ほども話が出ましたように、これからはやっぱりスマホの時代ですね、いろんなことがスマホでできる。新幹線に乗るのも、これから切符よりもスマホになってくるのではないとか、保険証もそうですし、そうなるんですけども、一つは、そこまで行くようなバスは駄目なのですか。加東市から小野市までは行けないのか、法律的に駄目なのであれば仕方ないのですが、それもちょっと考えてほしいと思います。それとか、図書館にパソコンを置いてほしい。例えば、無料でいろんなことを調べられたり、高齢の方がパソコンを使って何か変なことになったら困るから触らないのではなくて、パソコンとかそういうのを図書館に置いておいてもらって、やっぱり一対一が一番ですけどもそれは駄目だと思うのですが、講習会を開いてほしい。若い方じゃなくて、高齢者対象で、少人数で定期的に。もちろん無料か低料金で。スマホとかパソコンが使える講師を、ボランティアを集めてやってほしいです。やっぱり、歳がいてもパソコンやスマホでいろんなことができないことには、この世の中生きていけないので、それも一つ考えていただければ助かりますので、よろしく願いいたします。

事務局：小野市へのバスの話と、スマホ教室のお話をいただきまして、バスの方でいうと、主な担当は別のところになるのですが、加東市から直接、北播磨総合医療センターへ行くようなバスがつくれるかつかれないかといったら、他市もやっていますから、つくれるのは間違いないです。ただ、あまりやり過ぎると、今度、路線バスがなくなってしまうという、それがあるので、例えば、イオン社店から、小野市のような南北に今、既に神姫バスが走ってる路線に被せるような形で、路線バスを走らせるのは非常に厳しいと私自身も印象を持っていますし、バスの運行担当部署もそう感じており

ます。ただ、病院へ行く交通手段というのは、逆に福祉部門としては必要だと思っ
ていますので、直接のバスをすぐにといいわけではないのですが、こちらのほうでも、
何か出来ないかというのは検討しているところです。

委員：いつまでにやりますという確定的な日時は決まってないのですか。

事務局：いつまでにやりますというのは全然決まっていないです。もう一つ、スマホ教
室の関係ですけど、今年兵庫県が補助事業で、高齢者向けのスマホ教室をやるみたい
なことを、全体ではなくて各市でやっていますみたいなことに取り組みまして、
私もどういうふうな状況になってるのかなと思っています。それによってどのぐらい
高齢者の方が、スマホを使えるようになっていくのかというのはちょっと気にはして
いますので、その辺の動きを見ながら、こちらのほうも考えていきたいと思ってい
るのと、既に、加東シニアクラブ連合会については、スマホ教室を独自で運営されて、
自分たちで勉強してやっているというところも聞いております。

委員：それはどこでやられてるんですか。

委員：私もシニアクラブ連合会の会員なので、申し込みしたのですが、盛況で、なか
なか当たりません。

事務局：ドコモの携帯会社の方が来てサポートして盛況だったということをお聞きし
ていますので、たぶんまたシニアクラブ連合会のほうもやっていかれるのかなとは思
っています。それから、図書館にパソコンが置いていないかということですがけれど、
東条図書館の分しか存じ上げないのですけれども、1台だけ時間を区切った検索と
して使えるかと思うのですが。

委員：それはどなたか教えてもらえるんですか。

事務局：操作方法まではちょっと教えていないと思います。

委員：それが欲しいのですよ。

委員：加東シニアクラブ連合会がしている教室は、会員が対象だと思います。

委員：会員ですか。

委員：加東シニアクラブ連合会を担当しておりますが、参加できるのは、加東シニアク
ラブ連合会の会員様になっておりまして、今年はドコモさんをお願いしてるのですけ
ども、ドコモさんのほうが新型コロナウイルスの影響で、今は少し難しいかなという
ことで人数制限をしております、開催の目途は立っておりません。ただコロナウイ
ルスが収束してきましたらドコモさんの方からも連絡が入り加東シニアクラブ連合会
でも開催しようという声はあります。

委員：イオン社店で、やられてますよね、業者さんが。パソコン教室ですかね。ああい
うところで、加東市が主催で毎週開催するとかそういうのは無理なのですかね。坂の
上の市役所に行くというのはちょっとしんどいなと思うので、やはりああいうところ
に行くほうが楽なのですが、この高台に来るのは車がないと駄目なのでイオンが一番

いいのかなと思うのです。

会長：開催場所が別に市役所である必要性は全くないというところだと思うのです。イオンを使うというのは、たぶんイオンを使う使用料が必要になってきたりして、それが本当に市が負担するのが妥当なのかというところが必ず議論として出てくると思うので、おそらく公民館とか、より近いところでやっていくというのはすごく理想的な形ですけど、例えばスマホ教室の場合ドコモをお願いをされていて、ドコモだってそんなに地域に割ける余剰人員があるわけではないので、できるだけ1か所に来て集まってやるほうが効率がいいというところがある。でもそれを集めるのに、コロナの関係で制約がかかっていてなかなか難しいというところがあって、実は大阪ですと、当初、ドコモなどの業者がやってくれたスマホ教室で学んだ人が、今度講師になって自分の地域でやるというようなことを、循環させてずっとやっています。実はそっちのほうが参加されるお年寄りの方って、自分のペースと同じように迷いながらやってくれるので、すごくありがたいという、もちろん高齢の方が若い子と話したいと言って、それを目的に来る人たちは高校生とかに教えてもらうほうがいいとか、それぞれの目的があると思うので、その選択肢をできるだけ生活の場面の中で増やしていくというところですよ。それがより身近なところでできれば良いとは思いますが。公共施設のパソコンも、設置することも大切なものかもしれませんが、設置する意味は私はあまりないと思っています。もう今、パソコンというものは自宅にあるものなので、そういうところでどう使うのかというのは、教えてもらえるような形を持っていくというのも一つかなというところがあるので、むしろこの公共施設に、Wi-Fiを完備するとかのほうが実は重要になってくるのかなと思ったりします。移動ってやっぱりどうしてもついて回ってくるので。

委員：こないだの日曜日に住民学習会をしたのですけれども、第4弾でスマホの怖いところとか使い方とか、ここはこうしなければ大変なことになるというのを、講師を呼んで、スマホを出して、ここはこうしてとかいう講習会をやったのですけど、隣保長とかも結構年配の方がいるのですけど、わいわい言いながらスマホを開けてこれどうしたらいいのというのをしました。そういうのをしたらどうかなと思います。

会長：いろんな形が出てくるかなというのと、それぞれの地域特性に合った形というのをどう議論していくか生活支援コーディネーターの方を含めて検討していくというのは、すごく重要になってくるのではないですかね。

他にいかがでしょうか。資料4に移動の問題とかごみ出しとか、担い手不足、シニアクラブの会員数の減少、居場所づくりというところが挙げられていますけれども。

委員：移動のことで、先ほどの伽の里さんがされているような活動って、こういう機会があったら、皆さんにちょっとアイデアとしてですけど、全部の事業所とはいかないし、今コロナとかもあるので、実際のところは確認しないといけないのですけど、加

東市はデイサービスが割と多い地域だと思うのです。そこで、先ほど伽の里さんが言われたように、デイサービスは日中、割と車が空いているのですね。移動、移送のときに、車と、ドライバーと、保険とかこの辺の3つが問題になってくると思うのです。どこか1つの事業所とか、例えばどこかの誰かが1人でその全部を担うというのは、おそらくなかなか進んでいかない話だと思うのですけども、例えば、車は事業所から出ます、人は、おそらくデイサービスには、どこも介護保険事業所は人出不足なので出せないと思うので、人は何かしらのところで考えてもらったりとか、保険のところをどうするかという、この3つを1個ずつクリア出来たら、ある程度、たくさんは難しいかもしれないですけど、少しは移動手段の問題が、ちょっと前進するような気はするのですが。

委員：神姫バスで働かれていて定年で退職された方はいらっしゃるのですか。

委員：そこらへんがね、どういう形なのか、例えば事務局になってもらえる人を集めるみたいのがあったりとか、あと保険のところは、なかなか、介護保険事業所もそんなに潤ってるところはないと思うので、そこらへんを行政のほうで地方創生の関係で入ってくるものをそちらに回してくれるとか何かそういう方法が出来たらいいかなと思います。

会長：これ、実際、伽の里さん、保険関係はどうなっているのですか。

委員：できたら、補助金とか出してくれたら。全部自前なので。

委員：私、この施設の移動の保険の仕組はよくわかってないのですけれど、何かその利用者の送迎用の保険というのがあるのですか。

委員：そうですね、確か調べて施設の保険で出たと思います。それも調べて、一応問題をクリアしてると思うのですよ。

委員：その空き時間に地域で使ってもらって、何かもし仮に万が一のことが起こっても、施設の保険が適用されるということなのですか。

委員：はい。

委員：それは同乗者も全部含まれている。

委員：うちの職員が乗って行ってることなので。

委員：乗っている人が、施設の利用者かどうかは関係ないということなのですね。

委員：関係ないと思います。そういう保険ではなかったと思います。ドライバーがうちの職員だったら大丈夫と思うのですけど。

会長：クリアしてるからされてるっていうのは分かるのですけれど。だから、それが同じような保険で全事業所やってるというときに、問題はやっぱりドライバーの話になってくるということですね。

委員：そうですね。ですので、ドライバーも地域の方で60歳を過ぎて定年でちょっと手が空いてるみたいな方が手伝ってくれているので、その方が行ってくれたり、事業

所のデイサービスの運転もしてくれて、ちょっと今日これあるから残ってもらって行ってくれるかなみたいな感じです。

会長：それはボランティアでも全然大丈夫なのですか。

委員：ボランティアを前にしていたような気がする。

会長：たぶん気になるのは皆さんそこなのですよ。空いているから使ったらいいというのは簡単なのですが、万が一のことが起こったときの責任の所在といえば結構大きいので、それを例えば今、伽の里さんのところで何かが起こって、伽の里さんが被ることになるとなっても、いくら社会貢献、地域貢献でもそこまでというような気もしなくはないなというところがあって、だから例えば市とタイアップができることで、ちょっとその負担が軽減されていくとかいうような仕組みができるのかできないのかで、たぶん協力してくれる事業所が現れる現れないかも出てくるのかなという気がちょっとしたのですけれど。今たぶんそういう気概を持ってやっていただいていると思うので、甘えきっていていいのかなというふうに感じたりはします。

委員：ボランティアで車を貸したとします。だけど運転している人はボランティアでも、事故を起こしたら、運転手の責任はありますよ。その辺は、きっちり。そうなったときの責任は、保険から出るとしても、その人に対する責任はあると思います。

委員：今行ってる方は仕事として行ってもらってるので。

委員：あ、そうなんですね。

委員：今行っているのは、ボランティアではなくちゃんとお給料を払っているのです。補助金とかを出してもらえたら、そしたらちょっと地域にね、そういう支援をしてくれたら、デイサービスが多い加東市の中で、そういう、私達みたいなことをすることが出てくる。

委員：私、そういうふうなことをしてることを初めて知ったのですが、良いことだけど、それに対する対価というのは、運転手さんには払わないといけないからね、伽の里さんは。今はちょっとだから来てくれるけど、それが本当に日常的になってしまっ、呼んだら来てくれるってそんな簡単な問題ではないですよ。

委員：ですので、今しているのはとうじょう夢倶楽部さんが集まるときの送迎と、一部加東市から委託されてるふまねっと教室の送迎をお手伝いさせてもらっている。ふまねっと教室の送迎は加東市から委託されているもので、とうじょう夢倶楽部さんが集まるのはこちら側から支援していくという形ですね。

委員：ただ、ボランティアの人が運転してあげるということになっても、刑事責任とかそういう問題なってきたら、運転してる人は絶対に背負わなければいけない。だからボランティアの運転手というのは簡単なものでないのですよ。だから、その辺のとは、そういうのがあったらいいのはよく分かるのですが、私は、それをするのなら市の支援がないと難しいと思いますね。

委員：滝野地域に比べれば、東条地域や社地域には、自主運行バスであったり、その他乗合タクシーであったり、もうすごく便利に網羅されてると思うのですよ。その上にまだ伽の里さんが、そういったサービスしていただけたら本当に、モデルになってもらいたいと思いますし、私達の滝野地域につきましてはそういったことがないものですから、この間も、西脇市がされてます、むすブンについて市職員に来ていただいて、連絡、受付から配車までしていただくというふうな、すごい発想というか、そういう運行をされているのを聞いて、ぜひとも取り入れてほしいなと思います。滝野地域は本当に中央を通るJRもありますし、高速バスの乗り場も2か所もありますし、それから、路線バスも通っています。けれども、加古川を挟みまして、高岡地区や河高地区ではそういったところがちょっと不便ですし、また東の方、多井田地区とか稲尾地区とかそちらのほうになりましたら、本当に交通手段が必要だという人がたくさんいらっしゃるんで、ぜひとも、むすブンのような行政主導のようなことをしていただきたいなと思います。これは、この間、滝野地域連絡会でも話したのですが、滝野地域だけでは出来ないんで、行政のほうにぜひともちょっと頑張ってもらって、そういったことをしていただきたいなと思うのです。私一番初めから関わっていますので、移動販売をするについても、長い年月かかりまして、やっと明日、運行されて4年目のガラポン抽選会ができるようになりまして、ケーブルテレビでお知らせしてもらったり、全戸配布で皆さんにお知らせしてもらったりして、やっと4年の行事ができるようになったのです。これも、ちょっと定着してきたから、ありがたかったなというふうに思ってるのですが、ぜひとも、そこへ行くお出かけ支援というのが今一番課題かなというふうに思ってますので、そういったことを伽の里さんとか、滝野地域にもフロイデ滝野さんとかマイハウスみのりさんとかがありますから、そういったことができるのでしたらぜひともモデルになってですね、補助のほうも市で考えていただけるようにぜひともお願いしたいと思います。

会長：たぶん全てをお願いするという話ではないので、そこは安心していただけたらいいかなと思います。その日常生活の移動というのと、目的を持った移動というところでちょっと棲み分けをしながら、その中で例えばその後社会福祉法人のいわゆる通常の移動の車両を活用するというような手法という、その一つが先駆的なケースになると思うのですが、これを全部に広げて日常の交通手段としてまでというところは到底無理だと思いますし、もちろんそれはドライバーの問題も出てくるので、それはおそらく行政側の移動支援としての、だから、福祉車両を買い物に使っていいのかというようなレベルの話になってくると思うので、それはちょっと目的が違いますよね。だからそっちはやはり生活として、行政側がどういうふうに保障していくのかを考えていかないといけないというような、少し役割を明確に分けた上で、それぞれを担うべきところが担っていくというような形を、今後整理をしながら、議論を進めて

いかないと、あれもこれも、伽の里さんがすごくいい実践やっているから全部任したらいいんだという風にはならないようにはしていかないといけないと思います。

委員：これは二種免許がいるのですよね。

委員：二種免許はいらぬですね。

委員：何人ぐらいまでだったら二種免許がいらぬとかあるのですか。

委員：デイサービスの送迎車を、一種免許、普通免許で、それでお金をもらうという、そういう白タクというか、タクシーの業者をしているわけではないので、バスとか、そういうちゃんとしたその法律があるみたいで、そこには則らずにというところで、そこまで運輸関係の、法律的なところがいろいろあります。

委員：特例みたいなのですね、そしたら。

委員：はい。

委員：10人乗りぐらいの車とか、25人乗りのマイクロバスとか、そういうところも関係してくると思います、二種免許とかは。

会長：だからすごくハードルが高い話ではないということですよね。だから、いわゆる通常の施設付きのドライバーの方が運行できて、その方がすごい運転技術があるとか特殊な免許を持っているというレベルの話ではないということですよね。

委員：はい、普通の免許証です。

委員：今、伽の里さんですけど、三木市の吉川病院とかも伽の里さんが乗っているような車で、デイサービスの送り迎えしておりますからね、それは普通の一般の人がしていますけどね。ただ、人数がたぶん25人乗りとかになってきたら、やっぱり二種免許がいると思います。デイサービスの車は、普段そんなにたくさん乗せないからね。伽の里さんみたいな感じのとはね。

会長：たぶんそれだけ良い実践をされているということだと思いますので、いずれ何かが出るように市の方にはお願いしていただきたいと思います。

他いかがでしょうか。よく地域ケア会議に出していただくと、やっぱりごみ出しの問題というのは、よくお話をお伺いしたり、ただ居場所をつくってもコロナで居場所に集えないというのが今一番大きな課題だと思うんです。まあただ若干戻りつつありますよね。今年度ぐらいからいろんな地区で祭りが復活してきているということはすごく大きなうねりになるかなと思いつつ見ているのですけれども、ただ祭りの準備ですよ、1か月ぐらい前からみんな夜中にわいわいとしながら集まっているところを見ていると、マスクはちゃんとしながらやってるので問題ないのかなと思いますが。

委員：この頃、四国でも阿波踊りとか、京都の祇園祭とかをしてるから、復活しないといけないなという話は出てきているのですけれども、一応するという前提だけどコロナがまた復活してきてますよね。その時の感じで、これどうしようとか、そんな感じですね。

会長：そうですね、何か、地域の方とお話をしてると、実は祭りはなくても生活が成り立つということに皆さん気付き始めてしまって、別に参加しなくていいんじゃないのというのが、祭りに限らずサロンとかでもそうですけれど、結構何かそういうふうに、やっぱりあれって負担だったよね、別にやらなくていいんだったらやらなくていいんじゃないという考え方を持っている方が一部にいるという、もちろんそれがコロナの感染拡大というのはあるのかも知れないのですけれど。

委員：そうですね。うちの地区のほうも、祭りが3年ほどコロナでなかったのですが、今年から復活しようとなっていて。でもまた今増えているから宮司さんも迷っています。ちょっと生活支援体制とは離れてしまいますけど、昔だったら60歳で定年でもう60歳から年金をもらって家に居たという状態がありましたけど、今はもう65歳まで、60歳になっても65歳にならないと年金がもらえない状況になっています。皆、一応60歳で定年になるけど働きに行っていて、実際、役員をしていますが、家に居るものがないし、何するにしても家に居ない。緊急のときでも居ない。私は区長をしているから困ったものでね。

会長：やっぱそういうのが担い手不足というところに直結してきますよね。たぶん地域というものに対する思いというか考え方というのが、徐々に変わりつつある世代というのが、その最先端に今私たちの世代はいるのかなと思いつつ、でもこうして地域の方と話をしたらやっぱり地域って愛着をもたないといけないとかそこに誇りを持って住むのはすごく大切なことだと思いつつ、じゃあ自分は地域に根づいた生活をしているかという、なかなか自分の中で矛盾してると思うのですけれど。

委員：だから、私も困るのはもっと年配で80歳台とか、80歳前の方は昔の感覚が頭から離れない。私らの年代はちょっと下になりますけど、その年代になってきたら、若い方の年代の人と上の年代との板挟みみたいな年代で、だからこっちを聞いたらこうなるし。若い世代になってくると田んぼもしてない。何もしたくない。結局、一番荷がかかるのは区長で、他の者はもう仕事に出ているような現状です。その中で運営していくのはなかなか大変です。この生活支援体制というのを今日初めて勉強したのですが、この生活支援体制は全体的にこうするのですが、やっぱり東条地域の中でも地区によって年齢層が違えば、社地域、滝野地域においても地区によって年齢層の違いというか、それをどうしていく、一本化にしてするけどそれは大まかな話しかできなくて、本当に高齢者を助けていこうとするならば、その地域の者がやっぱり体制づくりみたいなことをしていかないと、それは全部で話し合いをしても、みんな同じ状況ではないので、私は無理だと思います。だからといって、一番私らが困っているのが、やっぱりそのコンプライアンスとか個人情報ね、それにパワハラね、もう大きな問題になってしまうからね。昔だったら、こういうことを平気で言っていた時代が、今はもうおかしい言葉とかを言ったら、若い子なんて徹底的に言ってくる子がお

るからね。だから、その辺の国の方針と現場との乖離がね、ものすごく違うのですよ。だから、なんだかんだ言って公共施設に尋ねるとか、市役所に尋ねたとしても、昔みたいにはっきり言ってくれない。大まかなことしか言ってくれない。責任がかかってくるからね。だから、昔みたいな本当の良いところが今の時代は消えてしまって、ただそんな法律で、なんだかんだ言って個人の自由やろ、人の勝手やろ、みたいな時代になってしまってますからいくら良くしてあげようと思っても、そんな深入りしてほしくないと言われてしまえば、それまでのものになってしまうしね。こういう問題に対して私、大事だなと思って見ていたのですが、これは本当に難しい問題ですよ。

会長：だからたぶん根本は、社会福祉協議会がずっと過去からやっている小地域福祉活動というのは本当に重要なところなんだと思っていて、そこをベースにこういう課題解決をしていく。その地区地区でいろんな課題があつて、でもやっぱり自分たちのところでは、アイデアがどうしても出ないことがあつたときにこういう場でうちこういうのをしているとかが出てきて初めて、じゃあうちもそういうのやってみようというふうになってくると思うのですね。それはたぶん全市的にやっぱりこれやっていかないといけないとなってくるとそれが政策形成のほうに挙がっていくっていうような、そういう流れをやっぱり持っていないといけないと思います。だからといって、決してその地域に丸投げをしてしまって、じゃあ頑張ってというようなレベルの話ではないですし、むしろその地域の皆さんからのアイデアを大切にしながら、それを今度、全市的に見たときに、例えば加東市として、これはやっぱり全市的にやっていかないといけないというものができて初めて、市としてバックアップしていきましようということが出来てくるのかもしれない。だから、そういう意味でこういう場がそういうきっかけになるような議論ができるような場になればすごくいいなというつも思いながら、でもこういう場がなかなか年1回とか、数回しかなければそれはみんなのガス抜きの場になってきて、あれしろこれしろとかいう話になってくるのはもう致し方ないのかなと思いつつも思いながら、だからそういう意味では、第2層の生活支援コーディネーターの方の動き方というのはある意味すごく重要になってくると思いますし、別に第2層生活支援コーディネーターという話ではなくて、そもそも社会福祉協議会の小地域福祉活動の根本の活動だから、そこにとにかく邁進してほしいというのが本音です。そこに、おそらく民生委員の方や区長の方とかが、あなた達が頑張っているのだから協力しようというような関係になってくると、たぶん地域ってすごくおもしろくなってくるし、コーディネーターとしてもこういうのがあるからやめれないのですというのが出てくるのじゃないかなと思いつつも思いながら、加東市に限らずですけど、いろんなところで話を聞いていて、生活支援コーディネーターが一生懸命やっているのだけれどもなかなか地域の人動いてくれなくてしんどくて、心が折れてしまつて辞めるというをよく見ているので、それだけにはなつてほしくないなとずっと思

いながら、もちろん、私も大学で学生を教える立場ですので、同じような立場で就職をしていって、心が折れて辞めていく学生も何人も見てますので、そうなるとすごく自分自身が歯がゆく自分は一体何をしてきたのだろうと思いながら話を聞いて、でも前を向いて次どうするということも言っていけないといけないし、つらいなと思うのですけれど、何かそういう関係性ですよね。だから生活支援コーディネーターだから頑張らないといけないのではなくて、生活支援コーディネーターだって地域住民の方に助けてと言えるようなそういう関係性をぜひ築いていっていただきたいなというふうに思いますので、もちろんいろんな成果が求められてくる時代なので、それはそれとして割り切りながらやっていくとかが大切なのではないかなと思います。社会福祉協議会から何かないですか。

委員：小地域福祉活動も、やはり各地区、地域の方々の、長年重ねてこられた部分について、今は助成金をお支払いするという形がどうしても基本で、そういった関わりではあるのですが、このコロナ禍の中でも事業報告をいただいたりする中にも工夫されて実施もされてきているところもたくさんあって、少し、コロナも当初よりも下火になってきてまた少し増えてきているという話もありますけど、だんだん元に戻ってくれば、そういった動きというか、皆さんが元気を取り戻して、いろんな活動全てですけども、また戻っていくことを願いつつ、我慢するところは社協も我慢して、よし行こうというときには一緒にまた力になって進んでいけるように動けたらよいかというふうに思っています。

会長：適切にバックアップをしていただければいいかなというふうに思います。あとはコロナに対して正しい知識や情報を持っておくかはすごく大切だろうと思います。

委員：地域のサロンですけども、コロナ禍のこの3年間はほんとに大きいです。初めに来られていた方が、3年間の間で、いよいよちょっと収束してきたみたいなので再開しようかと思っても、初め来られた方が、何人来てくれるか数えたら、もういらっしやいません。3年間の間に、もう本当にあっという間に亡くなったり、施設に入ってしまったら、いらっしやいません。やっぱり年配の方が寄っておしゃべりするの目的で、お茶をしながら、どうせお昼も家で1人なので、皆さんの注文を聞いて、我々実費ですけど、お昼を買いにいつてきて、そして、私たちはみそ汁を作ったりする。そして皆さんはそのままデイサービスみたいに、ゲームをしたりとかいろんなことをして、楽しそうにしてもらったのですが、この3年はすごい大きいです、本当に再開しようとしても、もう人がいない。

会長：コロナフレイルというのがすごく注目されて、家に居ないといけないから動く機会がなくなって、身体機能が衰えていくっていうのは、よく言われている話ですし、やっぱり関わらないから認知機能も下がっていくということも、多分研究成果的に言われてるところもあるので、やっぱりこういう機会というのをどう復活させていくか

というのは、そのメンバーが入れ替わるという意味では、それはポジティブに捉えたとして、やはり関わってた人が見えなくなるのはつらいところもありますけれど、だからこれをきっかけに次の新しい人をどういうふうに巻き込んでいくかというところを、社協として考えていったりすると、次の地域活動の展開というのがまた見えてきたりもしますし、ぜひそういうふうにしていただきたい。コロナはネガティブに捉えられがちですが、1つのターニングポイントなんだということで、次の展開に、次のステージに向かうところでやっていくというのはすごく重要になってくるのではないかなと思います。確かに子ども食堂なんかでも3年ぐらい開催が出来なくて、コロナ前に小学校2年生だった子が、この前来たらもう5年生になっているということをよく聞くので、3年間はやはり大きかった。だからそういう意味ではたぶんこれから出てくる、今年度来年度とかにかけて、また地域課題とか生活課題を皆さん集約してくると思うのですけれども、たぶん今回挙げていただいている移動手段やごみ出しなどの継続した課題と、おそらくコロナがある程度落ちつきつつあり、このままのいわゆるオミクロン株がずっと続いていくのであれば、もっと違う課題がこれから出てくる可能性がありますので、もちろんこういう継続的に考えていけないといけない課題と、これから新たに出てくるかもしれない課題というところを少し冷静に見極めていって、また、次の会議の時に課題が出てくるかもしれないという覚悟を我々も持ちながら、でもそれに向かっていけないといけない事実もありますので、そういうところはしっかりと見定めていけないといけないというところ、これからというふうに思います。

委員：この生活支援、ゴミ出しとかというのは、一人暮らしとかのための支援みたいな感じですけど、お年寄りというのは、若い方と一緒に同居している方もいますよね。それで、お年寄りの人は若い方と親子といっても、もうそんなに話をしてもらえない、家族の中でもね。これはもう生活支援のひとつではないかと思うのですが、やっぱり年配者と出合って向こうが話をしてきた時は、こっちの意見だけ言って帰るのではなくて、お年寄りの意見を、要するに人と喋りたいわけですから、それをよく聞いてあげて、やっぱりその相手がいくらお年寄りだからといってそういう目で見るとはなくて、お年寄りの人が言うことをよく聞いてあげる人が増えていったらお年寄りの人もいらいせぬにいい社会がいいなと思う。それがお年寄りの人が何気なしに暮らせる一つの方法だと思う。

会長：皆さんが生き生きと暮らせる地域はほんと大切だと思いますので、ぜひそういうところに向かってこれからも、常日ごろの関わりが大切だと思いますので、穏やかに皆さんの話を聞きながら、そういう視点で進めていただけたらと思います。今日皆さんからいただいた意見は今後の生活支援体制でも活かしていきたいと思います。今日はすごく良い意見をいただいて皆さんで情報共有ができたと思いますので、またこの

ような機会がもてたらよいと思います。

では、事務局に進行をお返しします。

5 その他

事務局より事務連絡

6 閉会

令和4年 12月 12日

会 長 藤原慶二

署名人 藤井貴久代

署名人 岩崎吉泰